

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年11月12日

【評価実施概要】

事業所番号	4270300421
法人名	有限会社 ふるさとの家
事業所名	グループホーム「城下」しまばら
所在地	〒855-0862 長崎県島原市新湊2丁目丙1740-1 (電話)0957-65-5008

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット 日本福祉医療評価支援機構		
所在地	〒855-0801 長崎県島原市高島2丁目7217 島原商工会議所1階		
訪問調査日	平成20年11月6日	評価確定日	平成20年12月9日

【情報提供票より】(平成20年 4月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成	15年	2月	1日
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9	人
職員数	9 人	常勤	6 人	非常勤 3 人, 常勤換算 6.1 人

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋 造り		
	1階建ての	階 ~	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	9,000 円	その他の経費(月額)	水道光熱費3,000円・実費
敷金	有(円)	(無)	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	300 円	昼食 350 円
	夕食	350 円	おやつ 円
または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(4月1日現在)

利用者人数	9名	男性	3名	女性	6名
要介護1	0名	要介護2	3名		
要介護3	3名	要介護4	3名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 83歳	最低	71歳	最高	91歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	県立島原病院・島原保養院・まき歯科・スマイル歯科
---------	--------------------------


【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

住宅地の一郭にあり、最近では地域の方が、「城下さんの近く」と目印に使っているほど地域に定着している。関連のグループホームを開設して10周年を迎え「初心を忘れず…」と夜勤明けの笑顔で話される運営者の表情からホームの状況が窺える。組織が大きくなって常にも現場を把握し、代表でありスタッフである運営者から、福祉に対する取り組みは情熱以上の物を感じられる。又、職員の結婚を入居者を含めてホームで祝い、入居者がドレスを着て祝っている姿から「老いても障害を持って当たり前に分らしく普通に暮らしたい」の理念をそのまま実践している事が理解でき、今後益々の向上が期待できる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>評価をホームの向上の一端として活用し、記録を取りながら結果を真摯に受け止めている。自己評価の改善計画シートと、外部評価の改善計画シートの両面を作成し、前回の改善点の鍵をかけない支援で、地域への連絡先のお願いや、災害対策では地震の訓練等、前向きに積極的に取り組む姿勢がある。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>評価をホームの向上と考え、個々の職員に自己評価表を配布し、記入してもらい、その後、管理者が集約して詳細に実施事項を記入している。職員は気付かない点の改善や、意識向上に役立っている。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>運営推進会議は2ヶ月毎に開催し、入居者家族・行政関係・町内会評議員・ホーム側が構成メンバーである。参加者はそれぞれの立場を担って参加し、地域の情報・市の動きや状況・家族の意向を踏まえた建設的な意見交換がなされている。又、時には子供交流会と一緒に開催したり、会議内容に合わせて、防火・行事の職員担当者が出席することがある。運営推進会議を開催する事で、協力と知恵を頂き、ホームの運営に反映している。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>お手紙に「ご要望などございましたらお気軽にお申し出下さい」と書き加え傾聴の姿勢をお伝えしている。又、来訪時には声を掛け、意見や要望を聞いているが、あまり言われないのが現状である。家族会等も検討中であり、以前家族アンケートを実施したことがあるが、最近では行っていない。遠方の家族がある事から、家族の思いを理解できるアンケート(例、終末期のケアの不安・入居状況を他者に伝えて良いかを含めた)の実施が望まれる。又、アンケート結果の公表が期待される。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>今年度は開設10周年の行事の一環として、記念講演を開いた。また、毎年恒例の地域子供交流会では、子供たちと饅頭を作り、町内に配布して喜ばれた。地域の人から福祉面で困っている事の相談を受ける事があり、住人の信頼を得ている。又、最近では、近所の方が、「城下の近く」と目印としても活用している。無理することなく行き来する自然な関係が出来てきている。</p>

2. 評価結果(詳細)

( 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設以来「老いても障害を持って、当たり前に分らなく、普通に暮らしたい」を基本理念に掲げ、家庭的な雰囲気の中で、住み慣れた地域との交流を図りながら、普通に暮らす支援を理念に沿って実践している。		
	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員は理念を「穏やかに・ゆっくり・手を出し過ぎず」を介護目標として日々のケアに取り入れている。入居者が毛筆で書いた理念と介護目標をホーム内に訪問者にもわかりやすく掲示し、共有に繋げ、尊厳を持ちながら支援している。		
2. 地域との支えあい					
	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	毎年恒例となった地域子供交流会では、今年は子供たちと饅頭を作り、町内に配布して喜ばれた。福祉面で困っている事の相談を受ける事が、地域の信頼を得ている。又、最近では、近所の人から、「城下の近く」と目印として活用している。地域とは行き来する自然な関係の充実が出来てきている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価をホームの向上と考え、個々の職員に自己評価表を配布して、記入したものを管理者が集約して記入している。職員は気付かない点の改善や意識向上に役立っている。又、自己評価の改善計画シートと、外部評価の改善計画シートの両方を作成し、前向きに積極的に取り組む姿勢がある。		
	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月毎に開催し、入居者家族・行政関係・町内会評議員・ホーム側が構成メンバーである。参加者はそれぞれの立場を担って参加しており、地域の情報・市の動きや状況・家族の意向を聞くことが出来る。又、子供交流会と一緒に開催したり、防火・行事の職員担当者が出席し、協力と知恵を頂き、ホームの運営に反映している。		

グループホーム「城下」しまばら

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	代表は地域の認知症ケアの指導者の立場であり、市町村が実施する研修会の講師を受託する事が多く、時には民生委員が研修で訪れる事もある。又、入居者で権利擁護利用者があり、市町村との関わりは密接である。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	今年度はホーム便りの作成は無いが、入居者の担当者が、その月の行事・日常生活・健康面について、手書きのお手紙を書き、利用料の送付時に同封して送っている。手書きをする事で、温かみが伝わる努力をしている。又、金銭管理は1名であるが、家族に報告して明確に行っている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	お手紙に「ご要望などございましたらお気軽にお申し出下さい」と書き加え傾聴の姿勢をお伝えしている。又、来訪時には声を掛け、意見や要望を聞いている。遠方の家族も何名もあり、あまり言われないのが現状で、家族会等も検討中である。		以前家族アンケートを実施したことがあるが、最近に行っていない。遠方の家族がある事から、家族の思いを理解できるアンケート(例、終末期のケアの不安・入居状況を他者に伝えて良いかを含めた)の実施が望まれる。又、アンケートを踏まえて、運営推進会議の議題や便りでお伝えする等、今後の取り組みに期待したい。
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	関連事業所の職員は、合同行事などで入居者とは顔馴染みで、和気あいあいと和やかであり、親睦会や打ち上げをしている。今年度は異動・離職が無く、馴染みの職員による統一したケアを実施している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修を受講する機会は多く、研修報告書を作成し、資料を添付して職員全員が閲覧し記名を行いながら共有を図っている。研修内容は、薬に関する勉強・認知症ケア・消防関係等多岐にわたっている。又、毎月、職員が全員参加してケア会議を開催し、ホーム全般について話し合いを行っている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表は地域の認知症ケアの中心的な立場であり、他のグループホームとは行き来する関係を確立している。又、島原半島連絡協議会に所属して研修会やスポーツレクリエーションに参加して、顔馴染みの関係が出来ている。		

グループホーム「城下」しまばら

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居希望者は、家族・居宅介護支援・宅老所からが多く、ホーム見学は基より、必要に応じて体験入居を実施している。重要事項を説明し、理解して入居に繋がっている。入居者の状況を理解し、安心した生活が出来るように一丸となって努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者は人生の先輩であり、接遇の方法・暮らしの知恵等、教えていただく事が多く、支援する側、される側に捉われない関係を目指し、楽しく生活を共にしている。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	基本情報を中心に、アセスメントや心身の情報を詳細に記述し、計画の見直しや変化に応じて追加を行い、職員間での情報の共有を行っている。日々入居者と会話をし、その人に沿ったケアを目指し実践している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	基本情報で入居者や家族の意向を捉え、入居者の担当者が介護計画の案を出し、計画作成担当者が作成している。1年間を視野に入れた介護計画を作成し、優先順位を付けて、1つずつ目標を日常記録に書き、職員間での共有を図っている。又、家族に介護計画の確認を頂いている。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は毎月、ケアプランシートで生活援助計画の見直し・検討を実施し、モニタリングチェック表を記入することで、入居者の変化と現状把握に努めている。課題は多くではなく、1つずつ確実に実施することを目標として、3ヶ月毎に目標の変更・維持に努め、現状に即した介護計画を作成している。		

グループホーム「城下」しまばら

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居者や家族のニーズを把握して、医療連携・病院受診や往診・早期退院・重度化に伴う終末期の入院回避・家族の宿泊・移動販売(野菜・魚等)での買い物を楽しむ等、様々な一人ひとりに合った柔軟な対応に努めている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者の希望に沿って、かかりつけ医の受診支援を行っている。又、2週間に1回は往診を利用している。医療機関とは24時間連絡・相談が出来る密接な関係を確立し、適切な医療支援を実施している。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	現在までに多くの看取りを実施している。代表は看取りの経験が豊富であり、医療連携の以前から終末ケアの学習を積み、研修等にも参加している。家族の意向と医療機関との協力を重点を置き、応急手当マニュアル・連絡網を準備している。職員も看取りを理解しており、経過は日常記録に記述し、今後も状況を把握しながら出来る限り看取りを実施していく方針である。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	どこまでが個人情報であるか常に配慮して支援している。開放的なホームであり、プライバシーに配慮して、声掛けに注意を払い、個別にお話しをする事を心がけている。又、日中は開放している戸も夜間は閉めて対応している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	それぞれ個別対応であり、起床時間や時には居室での食事等、その人の状況を見ながら支援している。毎日晩酌をしたり、ベランダで猫(入居時に自宅から一緒に連れて来られている)と戯れる等、自由な暮らしがここにはある。		

グループホーム「城下」しまばら

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ホームの庭に「城下農園」と大きな看板を建て、畑の作物が食卓に上る事は多々ある。入居者の中には、食事に関する一連の作業で、出来る事を積極的にしており、職員と一緒に食事を楽しんでいる。正に大家族が集う食卓の風景である。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	今年は特に、10月は風邪をひく人が多く、入浴が出来ないことが多かったが、清拭や衣類交換で対応し、清潔保持に努めている。又、湯加減は入居者の好みや、職員が手で触るか、足まで入って温度にも注意を払いながら支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	出来る人にはできる事をして頂く考えで、習字の上手な人には、毛筆で理念や介護目標や島原市民憲章を書いていただき掲示、洗濯物干しやたたみ・食事の一連の作業・掃除・草取り等入居者の生活歴や能力に応じた支援をする事で、活力の引き出しを行っている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日頃から外出を取り入れており、受診以外にドライブ・散歩・テラスでの日光浴・広い庭に出る・畑仕事・外食(2～3名)等、日常的に行っている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	外出傾向の入居者には、玄関に声掛けの明示をしたり、一緒に外出したり、先回りをして納得しての帰宅を促している。又、地域の商店や美容院にお願いし、近所の人々の理解と見守りにより、施錠しない生活支援が出来ている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回消防署・消防団・近所の人々の協力を得て、消火・避難訓練を実施している。毎月、通報訓練を行い、今年度は地震の訓練をしている。又、シリアル食材の準備をし、備蓄の検討をしている。		夜間を想定した訓練の実施はあるが、実際の夜間訓練は無く、暗い中での状況を経験され、職員の避難への自信に繋がられる事を期待したい。又、備蓄を今一度非常時を視野に入れて検討され、携帯コンロ等の準備が望まれる。

グループホーム「城下」しまばら

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	看護師が食事の計算をしている。入居者の病状や嚥下・咀嚼に配慮して、トロミ・刻み食を準備している。又、水分補給に注意して、1日約1,500ccを基本に提供している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関に下駄箱があり、その上に花を活け、一般家庭を訪問した雰囲気である。広いテラス・芝生の庭・農園があり、明るくそれぞれに入居者の居場所がある。住宅地であり、騒音は無く季節の花や野菜に囲まれ、入居者がテラスで猫と戯れ穏やかに過ごされる姿が居心地の良さを物語っている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は一元化することなく、それぞれの生活が窺える。入居者は他の人と一緒に安心する事もあり、居間と居室を行き来しながら生活しており、最低限の生活に必要な品を持ち込んでいる人や、自分が以前作った作品に囲まれて生活している人等、我が家として居室を活用している。		